

「小学校英語指導の手引き 3 (実践編)」

外国語による確かな コミュニケーション能力の育成を目指して

大分県教育委員会では、平成30年8月に「小学校英語指導の手引き 1 (基礎編)」、令和2年2月に「小学校英語指導の手引き 2 (応用編)」を作成し、新学習指導要領の着実な実施につながるよう、外国語活動・外国語科の理解を深めることを目指してきました。

本資料では、「実践編」として、計画的に児童に付けたい力を育み、外国語による確かなコミュニケーション能力を育成する授業づくりの参考となるよう、以下の内容を紹介します。

- 1 CAN-DOリストの形での学習到達目標について
- 2 CAN-DOリストの形での学習到達目標の設定例
- 3 単元計画の作成にあたって
- 4 学習指導案作成例とポイント (第6学年)



1

CAN-DOリストの形での学習到達目標について

(1) CAN-DOリストの形での学習到達目標とは

「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の5つの領域ごとに、「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、児童に付けたい力を「～することができる」の形で記した能力記述文を一覧表にしたものです。

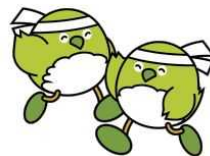
小学校学習指導要領(平成29年度告示)第1章第10節外国語「3 指導計画の作成と内容の取扱い」において、学年ごとの目標を適切に定め、2学年間を通じて外国語科の目標の実現を図ることが示されています。(※外国語活動も同様)

(2) なぜCAN-DOリストの形での学習到達目標を設定するのか

指導と評価の一体化の充実を図り、「英語を使って何ができるようになるか」というコミュニケーションを図る資質・能力を育成するためです。次ページの作成例を参考に、教科書や教材、児童の学習状況、授業時数等を踏まえながら、学校及び学年ごとの学習到達目標を作成します。そして、その目標に到達するための指導方法を工夫・改善したり、達成状況を把握したりしながら、授業改善のPDCAサイクルを確立することが期待されています。

(3) CAN-DOリストの形での学習到達目標を作成することの効果

- 教師間で共通理解を図りながら指導を行うことができます。
- 児童と「英語を使って何ができるようになるか」というゴールを共有することで、授業のねらいが明確になります。
- 「知識及び技能」の習得にとどまらず、それを活用してコミュニケーションを図ることを通して、五つの領域にわたる総合的な資質・能力の育成につなげます。
- パフォーマンステスト等で活用することにより、「英語を使って何ができるようになるか」という観点から評価をすることができます。



2

CAN-DOリストの形での学習到達目標の設定例

小学校外国語科 学習到達目標 (CAN-DO リスト) 例	
目指す児童像	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を身に付けた児童。
学習到達目標	<p>(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。</p> <p>(2) コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いた話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を身に付けている。</p> <p>(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。</p>

5つの領域ごとの学習到達目標					
	聞くこと	読むこと	話すこと[やり取り]	話すこと[発表]	書くこと
ア	ゆっくりはつきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる。	活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができる。	基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができる。	日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。	大文字、小文字を活字体で書くことができる。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができる。
イ	ゆっくりはつきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができる。	音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かる。	日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。	自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。	自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができる。
ウ	ゆっくりはつきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができる。		自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる。	身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。	

学習指導要領に記載

5つの領域ごとの学習到達目標

学年	聞くこと	読むこと	話すこと[やり取り]	話すこと[発表]	書くこと
6	ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄(思い出、将来のこと、第三者のこと、文化など)について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる。	ア 活字体で書かれた文字の形状を識別し、名前の縦りや身の回りの物に記されている大文字及び小文字を見て、その名称を発音することができる。	ア 買い物、食事、道案内、旅行などの場面で、基本的な表現を用いて指示、依頼をし、それらに応じたり、断ったりするやり取りができる。	ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄(時刻や日時、場所など)について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、写真やイラストを見せながら単元を通して書き溜めたものをもとに話すことができる。	ア 発音された文字の読み方を聞いて、活字体の大文字、小文字を書くことができる。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を語と語の区切りに気を付けながら書き写すことができる。
	イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄(行きたい場所、してみたいこと、思い出など)について、具体的な情報(季節や場所、数、感想など)を聞き取ることができる。	イ 掲示、パンフレット、絵本などの言語外情報を伴って示された語句や表現を読んで、必要とする情報を捉えたり、その意味を推測したりする。 ※音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を読ませる。	イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄(食べ物、着る物、遊び、行きたい場所、してみたいこと、思い出など)について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて、伝え合うことができる。	イ 自分や他者の趣味、得意なことなどについて、伝えようとする内容を選んだり順番を決めたりするなど整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。	イ 自分ことや身近で簡単な事柄(趣味、好き嫌い、国名など)について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用い、まとまりのある文章の一部を自分が表現したい内容のものに置き換えて書くことができる。 ※置き換える文や語句は例示する。
	ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄(自己紹介、人物紹介、してみたいこと、思い出など)について、短い話の概要を捉えることができる。		ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄(好きなこと、好きなもの、持ち物など)について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる。	ウ 身近で簡単な事柄(学校生活や地域に関することなど)について、伝えようとする内容を順番を決めたりするなど整理した上で、自分の考えや気持ちなどを既習表現と関連付け、簡単な語句や基本的な表現を用いて、話すことができる。	
5	ア ゆっくりはっきりと話されれば、視覚的な情報を手掛かりにするなどして、自分のことや身近で簡単な事柄(好きなこと、できること、誕生日、学校生活、町など)について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる。	ア 活字体で書かれた文字の形状を識別し、名前の縦りや身の回りの物に記されている大文字及び小文字を見て、その名称を発音することができる。	ア 初対面の人へのあいさつや自己紹介をしたり、買い物、食事、道案内、旅行などの場面で、基本的な表現を用いて指示、依頼をし、それらに応じたり断ったりすることができる。	ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄(時刻や日時、場所など)について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、写真やイラストを見せながらメモやキーワードをもとに話すことができる。	ア 活字体の大文字、小文字を4線上に正確に書き写すことができる。また、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができる。
	イ ゆっくりはっきりと話されれば、視覚的な情報を手掛かりにするなどして、日常生活に関する身近で簡単な事柄(好きなこと、できること、誕生日、時刻、値段など)について、具体的な情報(季節、場所、数など)を聞き取ることができる。	イ 掲示、パンフレット、絵本などの言語外情報を伴って示された語句を読んで、その意味を捉える。 ※音声で十分に慣れ親しんだ語句を読ませる。	イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄(食べ物、着る物、遊びなど)について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。	イ 自分したこと(趣味や得意なことなど)について、伝えようとする内容を選んだり順番を決めたりするなど整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。	イ 自分ことや身近で簡単な事柄(名前、年齢、時間割など)について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用い、英語で書かれた文を自分が表現したい内容のものに置き換えて書くことができる。 ※置き換える語句は例示する。
	ウ ゆっくりはっきりと話されれば、視覚的な情報を手掛かりにするなどして、日常生活に関する身近で簡単な事柄(自己紹介、学校生活など)について、短い話の概要を捉えることができる。		ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄(好きなこと・もの、持ち物など)について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして伝え合うことができる。	ウ 身近で簡単な事柄(学校生活や地域に関することなど)について、伝えようとする内容を選んだり順番を決めたりするなど整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。	

各学校で設定

3

単元計画の作成にあたって



(1) 単元を通じて付けたい力を育成する

単元のゴールから逆向き設計(バックワード・デザイン)で、1時間ごとの授業につながりをもたせながら単元を構成し、単元を通して付けたい力を育成します。

Step 1

学習指導要領の領域別目標や、各学校で設定する学習到達目標に基づいた単元の目標を設定する。

Step 2

児童の具体的な姿から、単元の評価規準を設定する。

Step 3

単元の終末で行う言語活動(Goal activity)を設定し、そこに向かうために必要となる言語活動や練習を考える。

Step 4

各時間の目標を設定し、Goal activity に向かうための言語活動や練習を配列する。

Step 5

各時間の目標達成に向けて、時間配分や評価場面等を考慮して1時間の授業を構成する。

単元計画を作成する際に、Goal activity で児童がどのようなコミュニケーションを行うのか、具体的な姿をイメージします。例えば、自己紹介をする単元では、右のような児童の姿が「おおむね満足できる」状況であると考えられます。

また、コミュニケーションを行う目的や場面、状況を明確にし、児童にとって必然性のある活動を効果的に設定します。

Hello! My name is ○○.

I like English.

Do you like English?

I like natto. Do you like natto?

I can soccer.

Thank you.



(2) 言語活動を効果的に行うためのポイント

外国語活動・外国語科における言語活動とは、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味します。言語活動を効果的に行うために、事前に以下の点に留意しましょう。

- 児童の興味・関心にあった内容を取り扱う。
- 語彙や表現に慣れ親しませるため、アウトプットを重視した、質的・量的に充実した活動を組む。
- 活動の前に、ルールや方法を日本語で説明するのではなく、モデルを示すようにする。
- 「自分の本当の気持ちを、知っている英語や態度で何とか相手に伝えようとする」ことが大切。
“Repeat after me.”の多い授業にならないように注意する。
- (モデルとして)学級担任やALTが自身の本当のことを語る。

本資料(1～3)作成に当たって、以下の資料を参考にしています。

- 文部科学省「各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き」平成25年3月
- 文部科学省「小学校学習指導要領解説 外国語編」平成29年7月
- 青森県教育庁義務教育課「小学校外国語活動・外国語科実践ハンドブック」平成31年3月
- 新潟県立教育センター「小学校外国語科 CAN-DO リストを活用したバックワードデザインによる授業づくりパンフレット」

4

学習指導案作成例とポイント（第6学年）



※ 次の学習指導案例は、佐伯市立上堅田小学校の中屋敷亜美教諭、波多野寛恵教諭の実践と、福田優子校長の協力のもとに作成しました。

児童観、指導観、教材観の関係を捉えやすいように、イメージ図にして示しています。



1 単元名 学年スポーツ大会「かみリンピック」を開催しよう！

（教材名『ONE WORLD Smiles 6』（教育出版）,Lesson6「Olympics and Paralympics」）

各学校の学習到達目標をもとに、年間の指導計画を見通した上で、本単元で付けたい力を設定します。



2 単元について

(1) 児童について

【「話すこと[やり取り]」の領域について】

前単元「What country do you want to visit?」の行きたい国を紹介する言語活動において、行きたい国を尋ね合ったり、国の魅力を紹介したりすることができた。話の内容について、その場で質問したり答えたりすることができた児童は少数である。

【「書くこと」の領域について】

ほとんどの児童が、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、四線に正しく書き写すことができる。既習の例文を参考に、ワードリストから言葉を選んで自分の考えや気持ちを表す文を書くことについては、十分に時間を確保した上で個別の支援を必要とする児童が2～3名いる。

(2) 教材について

【付けたい力】

- 「かみリンピック」でやってみたい競技について伝え合い、会話を続けることができる力
- 「かみリンピック」の紹介ポスターを作成し、まとまりのある文章の一部を自分が表現したい内容に置き換えて書く力

【〇〇小学校学習到達目標(CAN-DO リスト)】

話すこと[やり取り]

ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄(好きなこと、好きなもの、持ち物など)について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる。

書くこと

イ 自分のことや身近で簡単な事柄(趣味、好き嫌い、国名など)について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用い、まとまりのある文章の一部を自分が表現したい内容のものに置き換えて書くことができる。

(3) 指導について

【言語活動例】

- 学年スポーツ大会として実施するオリジナルのオリンピック・パラリンピック(かみリンピック)の開催に向けて、インタビュー形式のやり取りを通して、自分がやってみたい競技やその理由を児童同士で伝え合う。
- 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて、かみリンピックで担当する競技の名前や魅力などを友だちに知らせるためのポスターを書く。

【言語材料】

- 表現 What sport do you want to try? - I want to try (fencing). / This is (Nishikori Kei). / He [She] is a (tennis player). / He [She] can (play tennis well). / He [She] is good at (smash shots). / He [She] is (great/wonderful/ cool).
- 語彙 オリンピックとパラリンピックの競技名

言語活動が充実するよう、必然性はあるか、本物であるか、相手意識をもつことができるか、コミュニケーションの意義があり楽しさを感じることができるか、などを確認します。



3 単元の目標

学年スポーツ大会「かみリンピック」で行いたい競技について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたり理由やアピールなどを付け加えたりして伝え合うことができる。また、競技のポスターを、例文を参考に音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いてかくことができるようにする。

学習到達目標に基づいて設定した単元を通して付けた力をもとに、単元の目標を考えます。



4 関連する学習指導要領における領域別目標

話すこと [やり取り]	ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。
書くこと	イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。



児童の具体的な姿から、単元の評価規準を設定します。知識・技能は、言語材料を理解し、実際のコミュニケーションで活用できる技能を身に付けているかを評価します。思考・判断・表現は、コミュニケーションの目的や場面、状況に適切に応じているかを評価します。主体的に学習に取り組む態度は、思考・判断・表現と一体的に評価することができます。

5 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと [やり取り]	<p><知識>オリンピック・パラリンピックの競技名などを表す語句や What sport do you want to try? I want to try (fencing). 等について理解している。</p> <p><技能>自分の行いたい競技について、What sport do you want to try? I want to try (fencing). 等を用いて、考えや気持ちを伝え合う技能を身に付けている。</p>	かみリンピックで行う競技を決めるために自分の行いたい競技について、理由やアピール等も含めたお互いの考えや気持ちを伝え合っている。	かみリンピックで行う競技を決めるために、自分の行いたい競技について、理由やアピール等も含めたお互いの考えや気持ちを伝え合おうとしている。
書くこと	<p><知識>オリンピック・パラリンピックの競技名などを表す語句や What sport do you want to try? I want to try (fencing). の表現や終止符について理解している。</p> <p><技能>かみリンピックのポスターを作るために、自分のおすすめの競技等について、What sport do you want to try? I want to try (fencing). 等の表現を用いて、考えや気持ち等を書く技能を身に付けている。</p>	かみリンピックのポスターを作るために、自分のおすすめの競技等について、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを書いている。	かみリンピックのポスターを作るために、自分のおすすめの競技等について、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを書こうとしている。

本単元は、体育との関連を図った単元例となっています。他教科等で得た知識や体験などを生かした活動を展開することで、児童の知的好奇心を刺激するとともに、児童にとって充実した学びにつながります。



6 指導と評価の計画(単元指導計画)(全7時間)

	単元計画	評価の計画		
	題材/ねらい	知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1時	「オリンピックやパラリンピックの競技を知ろう」 オリンピックやパラリンピックの競技を表す語句について、教師とのやり取りを通して、理解することができる。	オリンピックやパラリンピックの競技を表す語句について、聞いたり言ったりしている。【行動観察】		

単元計画		評価の計画		
題材／ねらい		知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第2時	「やってみたい競技を尋ねよう」 どの競技を実際にやってみたいかを、インタビュー形式のやり取りを通して、尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。	どの競技を実際にやってみたいかを、What sport do you want to try? I want to try (fencing). 等を用いて、尋ねたり答えたりしている。 【行動観察】	「話すこと[やり取り]」の評価については、ペアになる相手によって条件が変わることも考えられるため、学期に1回程度のパフォーマンス評価を実施して、全児童を一定の条件にそろえて評価することも考えられます。	
第3時(本時)	「かみリンピックでやってみたい競技を尋ねよう」 かみリンピックでやってみたい競技について、インタビュー形式のやり取りを通して、考えや気持ちを尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。	★自分の行いたい競技について、What sport do you want to try? I want to try (fencing). 等を用いて、考えや気持ちを伝え合っている。 【行動観察、記述分析】		
第4時	「かみリンピックで行う競技を決定しよう」 かみリンピックの開催競技を決めるために、かみリンピックでやってみたい競技について、インタビュー形式のやり取りを通して、考えや気持ちを尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。 (学年合同授業)		★自分の行いたい競技について、理由やアピール等を含めたお互いの考えや気持ちを伝え合っている。 【行動観察、記述分析】	★自分の行いたい競技について、理由やアピール等を含めたお互いの考えや気持ちを伝え合おうとしている。 【行動観察、記述分析】
第5時	「かみリンピックのポスターを作ろう!①」 かみリンピックで担当する競技のことを友達に知らせるために、担当競技の名前や楽しいこと等について、例文を参考に音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書くことができる。	自分が担当する競技について、What sport do you want to try? I want to try (fencing). 等の表現を用いて、考えや気持ち等を書いている。 【行動観察、記述分析】		
第6時	「かみリンピックのポスターを作ろう!②」 かみリンピックで担当する競技のことを友達に知らせるために、担当競技の名前や楽しいこと等について、例文を参考に音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書くことができる。	★自分が担当する競技について、What sport do you want to try? I want to try (fencing). 等の表現を用いて、考えや気持ち等を書いている。 【行動観察、記述分析】	児童全員の観点別の学習状況を記録に残す評価場面に、★を付けています。記録に残さない時間においても、評価規準に則って児童の学習状況を把握し、適切な指導を行います。	
第7時	「出来上がったポスターを使って友だちに宣伝しよう!」 かみリンピックで担当する競技のことを友達に知らせるために、担当競技の名前や楽しいこと等について、例文を参考に音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書いたり、それをもとに話したりすることができる。		★自分のおすすめの競技等について、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを書いている。 【行動観察、記述分析】	★自分のおすすめの競技等について、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを書こうとしている。 【行動観察、記述分析】



単元のゴールである「第7時：かみリンピックの宣伝」に向けて、「第6時：ポスターを作る②」→「第5時：ポスターを作る①」→「第4時：かみリンピックでの競技内容の決定」→「第3時：かみリンピックでやってみたい競技のインタビュー」→「第2時：やってみたいオリンピック・パラリンピック競技のインタビュー」→「第1時：オリンピック・パラリンピックの競技を知る」というように、一つ一つの活動につながりをもたせた上で、単元計画が逆向きに設計されています。

7 本時の指導(3/7)

(1) 題目 かみリンピックでやってみたい競技を尋ねよう

(2) 本時のねらい かみリンピックでやってみたい競技について、インタビュー形式のやりとりを通して、お互いの考えや気持ちを尋ねたり答えたりして伝え合うことができるようにする。

(3) 展開 (45分)

時間	学習活動	指導上の留意点	備考・評価
3分	Greeting ・挨拶をする	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。	
10分	Warm up ・ Small Talk ・ Let's listen 1 (Pointing Game)	・ オリンピック・パラリンピック競技の選手の写真を何枚か提示し、複数の児童とやり取りをしながら、どの競技の選手かクイズを出し、答えさせる。 ・ 学級担任が発話した競技名を聞き取り、その競技名を指差すことで、競技名を確認する。	
25分	Activity ・ めあて及び本時の流れを確認する ・ やってみたい競技について尋ね合う	<p>・ かみリンピックでは 10 種目の競技を開催すること、その 10 種目を決めるために、インタビュー形式で互いに尋ね合い、それを集計して決定することを知らせる。</p> <p>かみリンピックでやってみたい競技について尋ねよう！</p> <p>・ HRT が前時にやり取りした競技の表を提示し、やってみたい競技の尋ね方や答え方について想起させる。</p> <p>Q: What sport do you want to try? A: I want to try ~.</p> <p>・ やり取りを続ける中で、尋ね方と答え方について児童が確認できたら、自分のやってみたい競技についてアピールする言い方を、既習表現を用いながら付け加えさせる。</p> <p>I like tennis. I like Nishikori Kei. What sport do you want to try?</p> <p>・ アピールを加えて尋ねたり、理由を尋ねたりする児童が増えてきたら、児童同士で尋ね合わせる。</p> <p>Q: What sport do you want to try? A: I want to try ~.</p> <p>・ 候補の表の中からやってみたい競技を選ぶことを知らせ、友だちに尋ねて聞いた答えの競技に印をつけさせる。尋ね役と答え役に分けて活動させ、途中で交代させる。 ・ 一番希望が多かった競技について、全員で結果の共有をするが、最終決定は次時(学年合同)に行うことを知らせる。</p>	<p>本時(本単元)において活用できそうな既習事項を考え、言語活動を通して意図的な指導を行うことが、外国語によるコミュニケーションの充実や学習内容の定着につながります。</p> <p>■「話すこと[やり取り]」(知識・技能) 自分の行いたい競技について、What sports do you want to try? I want to try (fencing). 等を用いて、考えや気持ちを伝え合っている。 【行動観察・記述分析】</p>
6分	Reflection ・ 本時の振り返りをする	・ 本時のめあてを再確認し、振り返りカードに記入させる。 ・ 学級担任による児童の頑張りを認めるコメントを伝える。	振り返りカード
1分	Greeting ・ 挨拶をする	・ 全体に終わりの挨拶をする。	



目的意識をもたせた上で、児童の学習状況を確認しながら、繰り返し児童に表現させ、定着を図っていくことが大切です。



本時(本単元)において活用できそうな既習事項を考え、言語活動を通して意図的な指導を行うことが、外国語によるコミュニケーションの充実や学習内容の定着につながります。

■「話すこと[やり取り]」(知識・技能)
自分の行いたい競技について、What sports do you want to try? I want to try (fencing). 等を用いて、考えや気持ちを伝え合っている。
【行動観察・記述分析】

……このパンフレットについてのお問い合わせ先……

大分県教育庁義務教育課

〒870-8503 大分市府内町3丁目10番1号 TEL: 097-506-5559

<http://www.pref.oita.jp/soshiki/31810/>